

水谷孝次&原田さとみ

ECO×MERRYプロジェクト [スペシャル対談]

中区制100周年を、 エコシティ元年に。

都心から始まるエコ・ムーブメント「ECO×MERRYプロジェクト」に注目!
まずは、4月19日(土)・20日(日)の「ECO×MERRYクリーンアップ」にご参加を。



原田さとみさんのお店「ベネローバ・ハリ・ベティヨ」で談笑するお二人。

中区が産声をあげてからこの4月でちょうど100年。その喜びを区民一人ひとりの笑顔で飾ろうと企画されたのが「Merry in NAKAKU (メリー・イン・中区) 中区制100周年記念事業実行委員会」。あなたにとってMerry (幸せ、楽しいこと、将来の夢など) とは何ですかという問いかけを行い、そのときの笑顔の写真とメッセージを大型のポスターなどにして各所に展示するコミュニケーションアートが「Merry Project」です。Merryは、広告やファッションの世界で活躍されている著名なアートディレクター・水谷孝次氏のライフワークですが、実は水谷氏、中区大須の出身。そこで、この機会に、地元である栄・大須を中心に楽しく参加できるECOイベントを行い、都心からエコ・ムーブメントを起こしていこうと張り切っています。イベント名は、「ECO×MERRYプロジェクト」。同じく中区に自らのファッションブランドを持ち、Merryのファンでもあるタレントの原田さとみ氏も、本イベントの趣旨に賛同して参加。お二人に、本イベントに対する期待を語っていただきました。

**子どもの頃に
思っていたことが
メリー・プロジェクトの原点**

原田 水谷さんはメリーの取材で今までに世界23カ国も行かれていましてね?

水谷 愛・地球博の公式プログラム「Merry EXPO」の取材で、アメリカ、ヨーロッパ、南米、ロシアなど、2万人以上の笑顔を集りました。

原田 素敵ですね。メリー・プロジェクトが生まれたきっかけは何だったんですか?

水谷 大須で育ち、体の弱かった父親の病院に付き添ったりして、その時何か人の役に立つことがしたいと、子ども心に思っていました。学生の頃は70年安保があり、平和を考えるイベントやコンサートもやったりしましたが、その後、東京の田中一光事務所でグラフィック・デザイナーの見習いを始めました。それから広告のクリエイティブの世界を中心に30数年、高度成長に乗り、バブルの時代も経て、いま、自分の人生、お金のためじゃなく、子どもの頃に思った何か世の中に役に立つことがしたいって思うようになりました。しかも自分が楽しめることを…。

**エコからエコへ。
エコ・エンターテインメントな
街・中区を発信**

原田 中区制100周年に際し、「ECO×MERRYプロジェクト」を行うわけですが、そこにはふるさとの街に対する水谷さんの、何か強い想いが感じられますね?

水谷 実は、愛・地球博開催年の2005年5月と9月に「ゴミ拾いプロジェクト」を中区で開催、1000人が集まってくれました。環境を変えたいという、たいそうなことだと思えるかもしれませんがそれは違います。身の丈にあった、小さなこと、身近なことから始める。足もとのゴミを拾ってメリーな、ハッピーな笑顔になる。せっかく環境をテーマに愛・地球博で世界中の人たちと盛り上がったんですからね、この地域の中心地である名古屋の中区を、エコ・コミュニケーション都市として、発信していきたいですね。

原田 私は仕事柄、パリへよく出かけるのですが、昨年の夏からパリの街の中でレンタサイクルが始まったんです。便利で機能的なシステムなのですが、そのデザインもおしゃれなんです。環境問題もアートやデザインと力を合わせるとさらに広



中区制100周年のポスター

Satomi Harada

原田さとみ

1987年モデルとしてデビュー。翌年、深夜のTV番組「ラジオDEごめん・金曜日の王様」(CTV)での出演を期にタレントとして、東海地区を中心に活躍。00年からは出産・育児のためタレント活動を休止。その間、自ら経営するセレクトショップ「ベネローパ・パリ・ペティヨン」にてファッションの分野での表現を続ける。さらに「お母さん」という立場から地球環境に配慮した持続可能な社会づくりに興味を持ち「人と地球にやさしい」をテーマに活動。05年タレント活動を再スタート。東海テレビ「びーかんテレビ」水曜日にコメンテーターとしてレギュラー出演中。

Koji Mizutani

水谷孝次

1951年名古屋市中区大須生まれ。大学卒業後上京し、桑沢デザイン研究所に入学。77年日本デザインセンター入社。83年水谷事務所設立。東京ADC賞、ポスター広告電通賞、JAGDA新人賞、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞、NY・ADC金賞など、国内外の数々の賞を受賞。また、00年のラフォーレ原宿を皮切りにスタートしたコミュニケーションアート「Merry Project」は、東京、ロンドン、神戸(Merry in KOBE)、そして愛・地球博(Merry EXPO)での開催を経て着実にその輪を広げ、近年はエコ・アート大賞エコ・コミュニケーション賞、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞など、数々の賞を受賞している。水谷孝次 <http://www.merryproject.com>



ECOXMERRYプロジェクトの実施概要(予定)

- 開催期間/平成20年4月1日(火)から1年間
- 開催場所/中区内各所
- イベント

1. ECOXMERRYクリーンアップ
(アースデイ愛知2008年に参加)

【開催日時】
平成20年4月19日(土)・20日(日)
10:00~12:00(予定)
【開催場所】
久屋大通公園・エンゼル広場からスタート
【参加申込】
電話・FAXにてお申込ください。

2. ECOXMERRYトーク

【開催期間】
平成20年5月3日(土)~6日(振休)
【開催場所】
松坂屋南館1Fオルガン広場(予定)

3. その他

ショップ参加型のECOXMERRYタウンや、環境デーのタイミングで行うECOXMERRYライフのほか、1年を通じてイベントを展開する予定です。

- 主催/ECOXMERRYプロジェクト実行委員会
- お問合せ・お申込み/エキスポカフェ発展協議会

〒460-0002
名古屋市中区丸の内一丁目13番11号ジャルダン桜橋9B
TEL052-990-6427 FAX052-220-3086

がりますよね。だから中区は水谷さん、ですね。

水谷 楽しくエコに参加できる、エコ・エンターテインメントなアクションプランが必要ですね。これからはみんながシェアをする時代です。自分だけという「エコ」ではなく、みんなで分け合ったり、無駄遣いを指摘しあったりして少々我慢することを楽しもうという「エコ」を。僕は、100周年で注目されている今年こそ、次の100年を考える契機にするべきだと思っている。だから、今年1年の中区は、エコイヤーにすべきたと。4月1日から始めていきたいですね。まずは、みんなに声をかけ、協力してもらおう。結果をいきなり求めるのは難しいでしょうからね。1年かけてエコムーブメントを起こし、エコシティへと育てていくような、そんな地道な努力が必要だと思うんですよ。それには、ヒトも、お店も、企業も、みんなが参加できる仕組みが求められるでしょうね。

原田 エコを実践してヒトも地球もみんなメリになる。ECOXMERRY(エコ・メリ)は4月1日からスタートしていくわけですね。そして、最初のイベントは、アースデイ愛知(4月19日・20日)に合わせ

せてECOXMERRYクリーンアップ。

水谷 そうですね。ECOXMERRYに参加するお店の方や企業の方をはじめ、中区制100周年の関係者、Merry in NAKAKUでメリの取材を受けた方には、全員参加していただきたいですね。もちろん一般の方も大歓迎です。詳しいことは事務局に聞いていただいて、みんなが中区から始めるエコ・ムーブメントを盛り上げましょう。

水谷氏は、Merry in NAKAKUのために中区民を中心に約650人の方のMerry取材を行いました。4月から5月にかけて、そのすべての方を紹介するMerry in NAKAKU展が、中区役所の1階ロビーなどで開催される予定です。今回のエコイベントは、中区制100周年を盛り上げるためのパートナーシップ事業として企画されたもので、都心から環境を改善していく起爆剤にならばという思いから地元市民団体・エキスポカフェ発展協議会や愛・地球通信らが水谷氏と協働で実施する事業です。興味がある方・参加したい方は、ご一報ください。お待ちしております!